

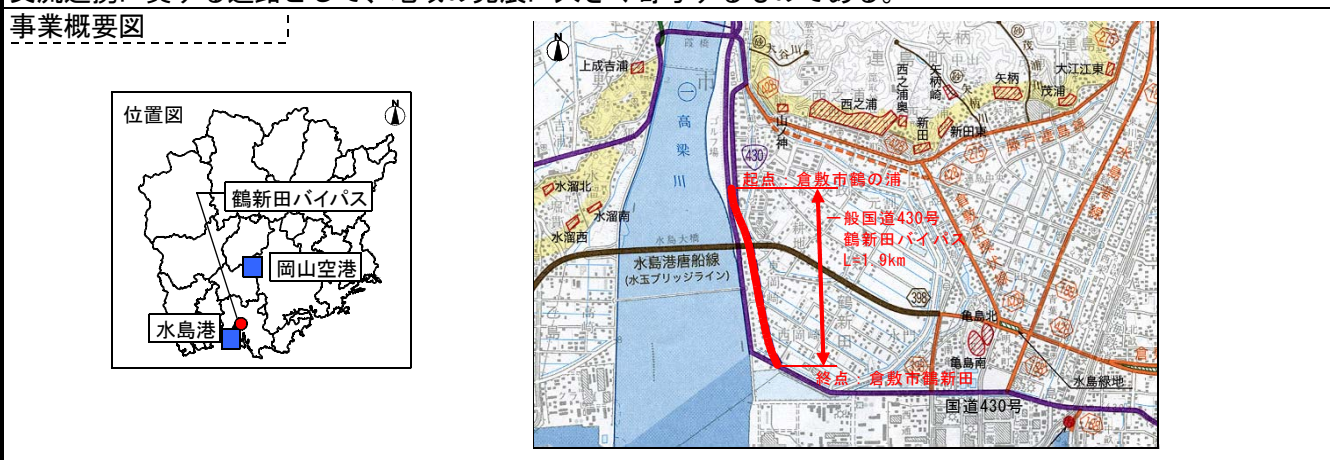
事後評価結果（平成20年度）

担当課：土木部 道路建設課
担当課長名：山本 恵

事業名	一般国道430号 <small>つるしんでん</small> 鶴新田バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	岡山県	
起終点	自：倉敷市鶴の浦 至：倉敷市鶴新田	延長	1.9 km			

事業概要
 一般国道430号は、岡山県倉敷市を起点とし、同県玉野市に至る延長約40kmの主要な幹線道路であるほか、2次緊急輸送道路に指定されている重要な路線である。
 鶴新田バイパスは、延長L=1.9kmの4車線道路である。

事業の目的・必要性
 鶴新田バイパスは、現道の国道430号の倉敷市周辺部の交通渋滞の解消を図ると共に、産業・観光等の交流連携に資する道路として、地域の発展に大きく寄与するものである。



事業の 効果等	事業期間	事業化年度	H4年度	用地着手	H8年度	供用年	(当初) / H16	変動	1.1倍
		都市計画決定	S54年度	工事着手	H11年度	(暫定/完成)	(実績) / H17		
	事業費	計画時	(名目値) — / 44億円	実績	(名目値) — / 54億円	暫定/完成	(実績値) — / 一億円	変動	
	交通量	計画時	— / 21,700台/日	実績	— / 16,700台/日	暫定/完成	— / 16,700台/日	変動	77%

旅行速度向上	30 → 49 km/h	交通事故減少	→ 件/億台キロ
(供用前現道→当該路線)	(供用直前年次) 16年度 (供用後年次) 17年度	(供用前現道→供用後現道)	(供用直前年次) 年度 (供用後年次) 年度

費用対効果分析結果 (当初)	B/C	総費用	一億円	総便益	一億円	基準年	— 年
	—	(事業費：一億円)	(維持管理費：一億円)	(走行時間短縮便益：一億円)	(走行経費減少便益：一億円)		
費用対効果分析結果 (事後)	B/C	総費用	75億円	総便益	143億円	基準年	平成20年
	1.9	(事業費：73億円)	(維持管理費：2.2億円)	(走行時間短縮便益：146億円)	(走行経費減少便益：3.5億円)		
事業遅延によるコスト増		費用増加額	一億円	便益減少額	一億円		

事業遅延の理由
特になし

客観的評価指標に対応する事後評価項目
—

その他評価すべきと判断した項目
特になし

事業による環境変化	環境影響評価に対応する項目 特になし
	その他評価すべきと判断した項目 特になし
事業を巡る社会経済情勢等の変化 ・平成18年度における水玉ブリッジラインの無料化により、福山方面への交通が減少している。	
今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性 事業に伴う整備効果の発現がみられることから、今後の再事後評価及び改善措置の必要性は無いと考えられる。	
計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性 特になし	
特記事項	

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。